

府中市生涯学習審議会（平成26年度第4回）会議録

1 日 時 平成26年7月28日（月）午後2時～4時

2 会 場 府中駅北第2庁舎 4階会議室

3 出席者

(1) 委員13名（50音順）

石田和男委員、井上治男委員、大谷久知委員、川内清文委員、木内直美委員、
茂田嘉彦委員、設楽厚子委員、芝 喜久子委員、鈴木映子委員、
田野倉晴美委員、寺谷弘壬委員、三宅 昭委員、山内啓司委員

※小林 繁委員、澤井幸子委員は欠席

(2) ファシリテーター2名

(3) 職員3名

古田生涯学習スポーツ課長補佐、目黒学習推進係長、大木事務職員

4 開会

5 連絡事項

(1) 配布資料の確認

- ・平成26年度第3回会議録（案）
- ・生涯学習フェスティバル ポスター
- ・第56回全国社会教育研究大会（徳島大会）開催要項
- ・資料「ファシリテーターとは」

(2) 前回議事録の確認

前回議事録（案）について、一部修正し、市民に公開することが了承された。

(3) 東京都市町村社会教育委員連絡協議会 第1回理事会の報告について

- ・7月24日（木）あきる野市にて開催。
- ・11月20日、21日に第45回関東甲信越静社会教育研究大会が鎌倉市で開催される。西東京市が第4分科会の事例報告者になっているので、是非参加してほしいとのこと。
- ・全国社会教育研究大会について、平成26年度は徳島県、平成27年度は大分県、平成28年度は千葉県での開催が決定している。今年度の表彰者は、清瀬市から1名。

- ・第5ブロック研修会の幹事市は小金井市で、10月25日（土）午後開催される。その内容については、後日のブロック会議にて決めていく予定である。
- ・定期総会が総会だけで終わってしまったので、次年度からは勉強会（講演会）を盛り込むことが決定された。

6 協議・審議事項

[意見の趣旨] ■：委員 ➡：事務局 ▼：ファシリテーター

(1) ファシリテーターの活用について

➡ 府中市ではファシリテーターを養成したいということで、初級、中級、上級の養成講座を開催している。昨年、一昨年と上級を開催し、今回は上級まで修了した方2名にお越しいただいた。府中市では具体的な施策として行っているものが無いという状況である。ファシリテーター養成講座を修了したところで、現在どのようなことを考えていて、どのような活動をされているのか伺えればと思っている。またそのお話しに対して、委員よりご質問等をいただければと思っている。

■ 自己紹介を兼ねながら、思っていることなどとお話しいただければと思う。

▼ ファシリテーター上級を卒業した。最初、ファシリテーターの役割などを学んだが、修了した後はどのような活動があるかの説明がないまま終わってしまった。ただ、ファシリテーターの手法としての内容は理解をしている。私は地域のコミュニティ活動をしており、生涯学習フェスティバルの副委員長を務めているが、そのような各種イベントなどに活かしている。

個人的に思うことは、第5期生涯学習審議会の答申の中で、ファシリテーターの養成と記載があるが、一番の問題が、生涯学習を推進するにあたって、個人レベルでの学び、グループとしての学びなど、学ぶ機会は与えられ、市も場所を提供しているが、その次の段階として、各団体の交流の場を設けられていない。或いは市での問題、例えば、大きな公園があまり利用されていない場合、地域にとってどのようなになったら一番良いのか、初めて地域の方や専門家などを呼んで、公園のあり方を検討しながら、あるべき公園の姿を皆で考える。その際、ファシリテーターとして色々な人を集めて、コーディネートしながら問題を解決するといった役割を今後求められると思う。

市長から市民協働を打ち出されているが、協働というのは単なる個人が学ぶだけではなく、市が行政を進めていって市民がそこにどう参加して問題を解決していくか、問題の解決診断も協働の意味の中に強く込められていると思う。一つは、市は予算を削減され、人も減って業務もたくさん抱えている中で、市民からの行政需用の声がたくさん挙がっているが、それに答えるだけの体制が整っていない。市民か

らは、きめ細やかな行政にしてもらいたいという意見もあるので、それら2つ合わせて、いかに有効な行政をやってくのかは、協働という形が解決する方法の一つだと思う。今後、協働作業をしながら、いかに市民や地域の問題点などを解決していくかが求められていると思うし、まさにその協働にファシリテーターが入って、調整しながら問題を解決できればと考えている。

- ▼ 問題になっているのは、ファシリテーターが活用されていない。私たちは2期目だが、2年間で、初級・中級・上級を受講してきた。講師は明治大学の教授や実際にファシリテーターとして活動している方の講義やワークショップをやってきた。最終的には5回連続講座を企画して、その内の一つを市報で告知して一般の方に来ていただくという企画だった。その後、受講生が集まる機会は全くなく、個々で活動しているのか、していないのかも分からない状況である。

そもそもこの講座は、立派な先生方やすばらしいカリキュラムがあり無料だったので受講を決めた。私も講座を企画していて迷ったりすることもあったので、良い機会だと思い受講したが、最初に府中市がどういう意図でファシリテーター講座を開催しているのか説明が全くなかった。受講者はスキルアップのために受講している人が多かったが、初級で30人いたのが上級では8人に減っていた。とても良いネットワークができると思ったので、その後の交流がなく残念に思う。

府中市にはファシリテーターが活動できる土台がないので、卒業した方たちは調布市、杉並区、世田谷区などで活動している。私も世田谷区や三鷹市に見学に行った。調布市では、個人が講座を提案すると支援してくれる組織がある。作家や評論家を呼んで、会場を借りて、成功させた人もいる。府中市でそれをやろうとしたら、悠学の会やシルバー人材センターなどの組織に入っていないと、個人で提案しても門前払いされてしまう。ファシリテーターをいくら養成しても、どう生かすかを決めておかないと、受講した人は力が付くかもしれないが、府中市の今後はどう生かされるかということに対しては疑問を感じている。最終的に8人残ったが、結局ばらばらになってしまったが、それぞれで活動している分野では学んだことを生かしていると思う。

- お二人からは現在の活動内容や経緯をお話いただくことができた。ファシリテーターが活動する土台がないので活躍しにくい、ファシリテーター養成講座で個々に学んで、学び返しをしていると思うが目に見えてこないということだった。委員から質問等はあるか。
- 養成講座受講後は個人で活動しているのか。
- ▼ 私は個人でグループを立ち上げており、府中市とNPOボランティアセンターとの3者協働企画ということだったが、実際にIT講座を計画実行したのは私たちで

ある。

■ その講座を提案したのか。

▼ 審査があり、それに受かった。

■ 府中市から活用の場が与えられていない。上級を受講した後、何かやりたいと思っていたが解散してしまった。現在はグループを立ち上げて活動しているが、ネットワークがないと伸びていけないと思う。個々に立ち上げては結束力がない気がする。上級を受講した人たちの交流会を設けて、府中市の協働のあり方など協議していきたいと思っている。前向きに活動していくには、横の繋がりが必要だと思う。受講した内容は身につけているので、良い方向に活動して、世田谷区の方たちとも交流会や勉強会をしてみたいとも思う。これからの老人社会、女性が働く社会になってきているので、そういうところを救うような共同体が必要ではないかと思う。色々やってはいるが、ファシリテーターとしての活躍の場がもっとあっても良いかと思う。

■ 世田谷区や杉並区などでは、すでにファシリテーターの方が活躍しているということだったが、府中市で活動するためには何が必要か。例えば、市からの要請や講座をするときに市がバックアップするなど、活動するための土台づくりには何が必要だと思うか。

▼ 生涯学習審議会の第5期答申に、どういう問題があるか、どういう声があがっているかなど、市民の声を拾い上げる相談窓口を作りなさいと書いてある。色々な意見が出てきて、それを解決するためには、NPOや学校、PTAなど色々なグループがあるので、解決してくれそうな人を集めて話し合ってもらおう。その役目としてファシリテーターが活用できる。

まずは、府中市にどういった人材、グループがあるのか、グループごとの活動状況が分からないと、どこに声かけて良いかわからない。それを解決するために場が必要になるので、学校や公民館、文化センターなどの場を提供してほしい。人が集まって、場を設けて、ファシリテーターと一緒にその問題について諮ることができる。ひとつの問題解決集団ができて、その解決策を市と実践することができる。それをひとつのサイクルとすると、問題が解決すると同時にグループ間の交流が広がっていく。そういった実践の場を提供することによって、協働の形が実感としてわかってくる。小さいことでもたくさんやって、達成感を感じてもらうためには、相談窓口を設ける必要がある。

もう一つは、市民だけではなく、ある程度意識的な人たちを集めて、市にはどういう問題があるのか、問題を発見する組織を作ると協働という形になる。そこに我々がファシリテーターとして出向いていくことを理想としている。

- ▼ 市外で活動している人たちを呼び戻して、府中市で活動してもらったら、ものすごい力になると感じている。
- 養成講座を見限って、来なくなってしまった人たちと話したことはあるか。
- ▼ グループに分かれて討論会をしてきた。結構問題意識が高い人が多くて面白かった。
- その受講生のなかには、生涯学習審議会委員も何名かいるが、この審議会を知っていたか。
- ▼ 私は初めて聞いた。
- これだけは勉強して良かったと思うことはあったか。
- ▼ ファシリテーターとしての技術を足かけ2年でかなり学んだ。カウンセリングやコーチングなど多方面に渡って勉強できたし、参加者との交流もあったので、色々な問題が聞けて良かった。
- ▼ 市民の税金をかけてやっているのに、卒業後に何も無いのは何のためにファシリテーターを養成しているのか分からないし、大きな問題だと思う。養成している以上は、それなりの理由があって予算要求もしているのだから、それが活用されていないと、どう説明するのか。
- ▼ やっている姿勢を示すだけで良いのかと思った。というのは、全5回の講座企画の1回だけは、市民に周知して受講してもらおうというものだった。本当は広報に掲載する文章も私たちが考えたかったが、事務局が考えたものが「ファシリテーター講座受講者募集」だった。こんなタイトルで誰が来るのかと思った。結果、1人も来なかった。
- ▼ 今後も上級講座を実施するなら、養成後の活用を文書化してほしい。ファシリテーターをどう活用して良いか分からないなら、ファシリテーターを集めて、皆で考える場を設けてもらえば、そこからスタートできる。悠学の会が講座を企画しているので、悠学の会とファシリテーターで集まりたいと担当者に言ったが、その後、そういう場は設けられていない。その場さえ設定してくれなかったのが、寂しい気持ちになった。
- 私も養成講座を受講したが、集まって何かやらなければとは思っていない。今自分が活動している所で生かしていければ良いと思っている。
- ファシリテーターの話は初めて聞いた。これは良くある話で、行政のリーダーシップや実力がなく、何をしても良いか分からないので、ただ形だけつくるのである。お金もかかっているのに、意味のないものなら始めから作らないほうが良かった。もったいないから、しっかり考えないといけない。
- ファシリテーターやコーディネーターが必要だと答申を出したので、市が養成講

座を開催しているという経緯がある。今期も答申しなければならないので、ファシリテーターを活用できるよう具体的な提言をしていく必要がある。

- 相談窓口を設けたときに、ボランティアではなく、ファシリテーターを置いて対応するという流れがないとうまくいかないと思う。また、あまり活用されていない文化センターとタイアップする形も考えていければ良いと思う。
- 人を集めるのは費用がかかるので、その予算がないのではないか。もしボランティアで集まるようになったとしても、市がボランティアとして集めることはできないと思う。それでは進んでいかないのではないか。最初の市の目論見は、文化センターで色々やっているところにファシリテーターが入って行って、一緒に検討しながら文化センター同士を繋げていこうということだった。その中で、流れが実現できないのは、やはり十分な予算がないのが原因だと思う。
- ▼ 協働となると、市と市民がある程度対等にやるので、市だけにお金があって、市民にお金が無いというのはおかしい話なので、一緒にやるのであれば、予算要求してもらわなければならない。私たちが企画講座をやったときも、講師を依頼するときにボランティアで来てもらうのは気が引けたので、1日5000円で来てもらった。やはり行政がある程度の水準の問題や課題を解決していくにはお金が必要になる。
- これから答申するにあたり、すべて伺ったことを生かせるかどうかは分からないが、これだけは言っておきたいということはあるか。
- ▼ 市がファシリテーターを養成して何をさせようとしたのか、はっきり見えない。文化センターなど活動しているところに行って、私たちがまとめることは可能なか。そもそもファシリテーターは何を期待されているのか。先ほど、問題解決をするためと言っていたが、私は楽しいことを企画しても良いと思っている。私は企画して会場を借りて、人を集めて、楽しんでもらえるようなことをやりたいが、個人でやろうとしても会場を貸してくれない。何かをやろうとすると、やれない障害が出てくる。
- それを手助けするようなグループがあれば良い。
- ▼ 調布市にはそういう組織があるが、府中市には無い。
- 講座を受講した人が10人以上いれば、社会教育関係団体に登録できる。お互いに自己研鑽しながらグループを活発化して、要請があれば出向くことができる。
- ▼ ただファシリテーター同士が集まって勉強し合っても、市民のためにならないのではないか。審議会がそれをやれば良いのではないか。
- ➡ 制度的に個人ではやりづらいと思う。文化センターも生涯学習センターも社会教育関係団体を特に優遇するので、個人ではお金かかってしまうし、会場予約も難し

い。現行では、講座実施日の20～30日前からしか動けない。

- ▼ 生涯学習センターのプールのレーンを借りて、仲間を集めて、知り合いのオリンピック選手に指導してもらおうと思ったが借りることができなかった。団体登録して、半数以上が府中市民でなければならず、単発での利用は認めてもらえなかった。また、団体でレーンを借りているときに、そのレーン以外のところで泳ごうとすると注意されるので、再度入場券を買って入り直したと聞いたこともある。定期的に練習することはできるが、仲間を集っても1回のみで団体貸し切りでは練習をすることはできない。
- ▼ まずはファシリテーターで集まってから始めたい。市も生涯学習として、協働という事業に取り組むためにファシリテーターを活用するのであれば、市としてもそれなりの人を置いて、ビジョンを検討して場を設けてほしい。まずはそこからスタートしないと動きようがない。

(2) 答申の検討について

【審議テーマ】地域教育力を高めるための新しい学習活動の支援について

- 推進計画の中の第3項目について、学校関係も入ってくると思うが、ファシリテーターの方々の話も含め、ご意見等いただきたい。地域教育力というと、家庭教育や学校教育など色々あるが、どういう推進をしていけば良いか。この項目の中で一番活かせるのは協働ではないか。
- 地域教育力とは、その地域が教育する力という意味か。
- 地域の教育する能力を高めていくための力である。
- 「新しい学習活動」の主語は誰になるのか。
- ➔ 行政が作成しているものなので、主語は府中市である。
- 行政は地域の人たちが頑張るために新しい学習活動を支援する。それ以外のものでも行政が背中を押してあげると生まれてくるものがあるのではないか。
- ファシリテーターは、まず起動させなければ、どんな課題があるのか分からない。窓口をしっかりとたてて、そこから推進していかなければならない。
- 地域の人が学校に講師として招かれて講義している人もいる。
- ほとんどの場合、学校から来てほしい人をお願いをしている。
- 学校の担当の方が講師を探しているのか。
- はい。今は地域コーディネーターに間に入ってもらい、探していただいている。
- 高齢社会に対応する学習の推進ということで、介護施設での学習を手助けできないか。
- 色々な推進が行われているが、足りないことを補うようなシステムがあると良い。

- 十分、推進しているが、それを推進していく過程の中で不足している部分を挙げれば、より良い推進ができる。
- 安立園では色々な行事が行われているが、西府の介護施設ではあまり行われていないので、「ハッピーサロン西府」という団体を作った。まだ応援してくれているので良いが、自分たちで何かやろうとしている職員がいなければサポートできない。
- そういう時に、生涯学習サポーターが使えると思うが、ただ掲載されているだけで、どのくらい活用されているか分からない。
- 多摩交流センターは活発にやっていると思う。講師をしたい人が登録をして、必要とされれば依頼が来るようなやり方もあると思う。
- ファシリテーターも養成して、その後が続いていかないので、うまくいくように土台を作りたい。
- 寺子屋や悠学の会を活用してOKして、リンケージから寄り添ってきている。人材発掘もやっているかと思う。悠学の会が入口を見つけていくのかと思う。
- 悠学の会になるまでも大変だったのか。
- ボランティア活動としてはうまくいったと思う。悠学の会にするときには反対者がいたので大変なこともあった。始めは行政が主導でパソコン講座をやっており、府中市内から講師を選んだり、NHK放送大学にも講師をお願いしていた。ボランティア活動が始まったのは、陶芸窯を運転する人やカラープリントの技術者が必要だったので、職員以外の市民等がやるようになった。
- 始めは市が主導していても、協働する部分があったので今の形になったと思う。
- 協働はしている。こういう講師を呼んではどうか等の提案はしてきた。
- ファシリテーターの活用も市の力が絶対必要なのではないか。
- 全般的に支援するイメージがぼやっとしているので、具体的なものが必要ではないか。
- あれこれ言われてもできないので、今年度はまずこれをやろうと決めてはどうか。そういうやり方をしないと簡単にはいかない。
- 少しでも背中を押してもらえれば良い。市民1人の力ではうまく進まない。
- 呼びかけが市でも市民でも、うまく回してお互いの力を出し切るようなシステムができると良い。
- それがファシリテーターの仕事である。ファシリテーターとしてやっていきたいのであれば、自分でできることを探してくる努力も必要だと思う。行政を説得しなければ、やってくれない。
- 皆さんの推薦母体で、特に力を入れて推進してほしいことはあるか。
- 文化連では三味線や琴、華道、茶道等を子供向けに指導しているので、それなり

に地域活用していると思う。

- 小さいときに経験すると子どもにとっても幸せだと思う。
- 高齢者施設でお年寄りが若返るきっかけがあると良い。アニマルセラピーなども効果的だと思う。南町に太極拳の団体があり、若い方がお年寄りに教えている。身体だけでなく心も若返るようなことができれば良い。一般的にあまり浸透していない横文字の言葉がたくさん出てくるが、ファシリテーターもどのくらい理解してもらえるか。
- 一般の方はわからないと思う。以前、広報に掲載されていたことはあった。
- インターネットでも検索すれば出てくるが、横文字にしなくていいものは、より理解の得られやすい日本語でも良いと思う。

7 その他

(1) 次回の審議会について

第5回生涯学習審議会

日時：平成26年10月27日（月）午後2時

会場：府中駅北第2庁舎 2階会議室

以上